

2018（平成30）年度 神戸大学 入試問題 第1問 解答例

問一

(a) 参集 (b) 反響 (c) 喚起 (d) 候補 (e) 管轄

問二

現実を模倣し、モデル化によって真実らしく提示したフィクション世界へと読者が没入することを媒介として、現実の深層構造を再帰的に認識することを可能にするという価値。

(八〇字)

問三

ル＝グウィンとは、故意に事実を標榜する有害な嘘と、想像の産物であり無害なフィクションとを同一視することは危険であり、後者固有の領域を守る必要があると考えたから。

(七九字)

問四

命題の真理値ないしは発話者の誠実さに関する規則に規定されないように、発話を現実的立場に関与させないことで、遊戯的側面を備えたフィクションを成立させるという慣習。

(八〇字)

問五

フィクションの成立条件は、欺くことなく現実の発話を偽装する発話者の意図への社会的合意と、発話が現実に関与していないという遊戯的慣習とにある。両者はフィクションと現実という相補的二元論が人間の言語と思考のうちで保持されることを意味するが、現代のポスト・トゥルース的政治の影響により、現実への信が損なわれ、崩壊の危機にある。

(一六〇字)